

製品名: NPY1-R ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14859**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:10000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	NPY1R
別名	NPY1R; NPYR; NPY1; Neuropeptide Y receptor type 1; NPY1-R
遺伝子 ID	4886.0
SwissProt ID	P25929
免疫原	抗血清はヒト NPY1R 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270

背景

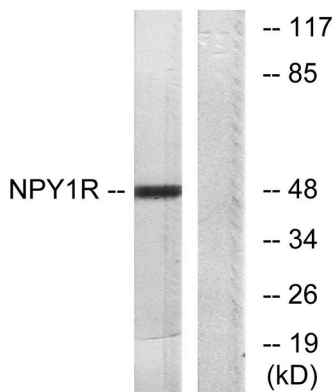
この遺伝子は G タンパク質共役受容体スーパーファミリーに属する。コードされている膜貫通タンパク質は、神経伝達物質である神経ペプチド Y (NPY) および消化管ホルモンであるペプチド YY (PYY) の機能を媒介する。コードされている受容体は、アゴニスト

誘導性によりクラスリン被覆ピットを介した迅速な内部移行を受け、その後細胞膜へ再循環される。Y1 受容体の活性化は、細胞内カルシウムの動員とアデニル酸シクラーゼ活性の阻害につながる可能性がある。[RefSeq 提供、2013 年 8 月]、機能: 神経ペプチド Y およびペプチド YY の受容体。この受容体の隣ポリペプチドに対する親和性の順位は、NPY > [Pro-34] PYY、PYY および [Leu-31、Pro-34] NPY > NPY (2-36) > [Ile-31、Gln-34] PP および PYY (3-36) > PP > NPY 遊離酸です。類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属します。、

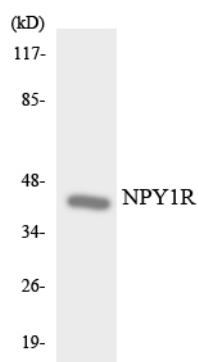
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

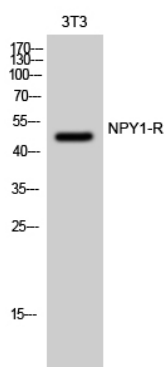
画像データ



NPY1R 抗体を用いた NIH/3T3 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



NPY1R 抗体を使用した 293 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



NPY1-R ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析